

# 教育研究業績書

2025年05月07日

所属： 附属総合ミュージアム

資格： 助教（臨床）

氏名： 並木 晴香

研究分野	研究内容のキーワード
日本美術史（近世絵画）、文化情報学	近世絵画を中心とした日本美術・日本文化について、多角的な視点と情報を用いて分析をおこなう
学位	最終学歴
文化情報学（修士）	同志社大学大学院文化情報学研究科博士後期課程 満期退学

## 教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
<b>1 教育方法の実践例</b>		
1. 「メディアとしての博物館－双方向活用と役割－」（同志社大学「博物館メディア論」担当回）	2018年4月1日～現在	同志社大学博物館学芸員課程「博物館メディア論」のなかで担当している「メディアとしての博物館－双方向活用と役割－」では、八幡市立松花堂庭園・美術館での展覧会活動以外の様々な取り組み（展示室以外の施設を利用したイベント、小説への売り込みなど）について取り上げ、人々が交流し、社会と博物館とが双方向に連携する関係性について紹介をしている。
2. 「茶道具の取り扱い」「染織品の取り扱い」（同志社大学「博物館実習」担当回）	2017年4月1日～現在	割り当てられている2コマの講義のうち、1コマ目では、学芸員として調査研究・展示をおこなうにあたって必要となる歴史的背景や各資料についての知識、取り扱いの注意点などを順序だてて解説する。そして2コマ目では、「茶道具の取り扱い」では箱紐の結び方や茶碗の扱い方、調査方法などを実践し、「染織品の取り扱い」では着物（主に長着）について様々な素材のものを準備し、実際に触って素材や装飾について学び、畳み方をマスターできるように実践している。
3. 「美術史特殊講義（四）」（奈良大学）	2017年4月1日～2019年3月31日	主に桃山時代から江戸時代の日本美術（絵画）について講義をおこなった。自らの専門分野である風俗画を中心に、狩野派・円山派など近世絵画について流れや関係性を理解できるよう、資料を多用して説明をした。
<b>2 作成した教科書、教材</b>		
<b>3 実務の経験を有する者についての特記事項</b>		
1. 八幡市立松花堂庭園・美術館での学芸員活動	2016年1月1日～2023年3月31日	学芸員として展覧会の企画立案・資料調査・展示作業・展示解説を随時おこなった。また副担当として関わった展覧会についても、資料調査・資料集荷・展示作業に携わった。さらに、施設のイベントとして開催した茶会・展示会にもスタッフとして関わり、来客対応や会場準備をおこなった。
2. 新潟市歴史博物館での学芸員活動	2011年4月1日～2013年3月31日	また、館実習や職場体験も主に担当した。館実習では、各大学担当者や学生との連絡、内容の企画、学生対応を行い、展示や実践の指導や実習記録の取りまとめなどをおこなった。さらに館の情報発信も主に担当し、HP管理やSNSの立ち上げ・発信もおこなった。教育普及担当の学芸員として、主に定期刊行物（博物館ニュース「帆橋成林」、「新潟市歴史博物館研究紀要」）の編集を担当するほか、ボランティアスタッフの取りまとめ、博物館見学の対応、イベントの企画・実施、展覧会企画・作業、資料調査をおこなった。
<b>4 その他</b>		

## 職務上の実績に関する事項

事項	年月日	概要
<b>1 資格、免許</b>		
1. 高等学校教諭一種免許（数学）	2009年3月31日	
2. 高等学校教諭一種免許（情報）	2009年3月31日	
3. 学芸員資格	2009年3月31日	
<b>2 特許等</b>		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 八幡市立松花堂美術館 展覧会：令和5年 新春展 「縁起もの 一卯年の春めく作品一」	2023年1月14日～2023年2月19日	【主担当】干支にちなんだ作品をはじめ、館蔵品を中心に新春を寿ぐ内容の展覧会を開催。展覧会内容の企画立案、広報物の作成、作品の調整、キャプションの作成、展示解説、取材対応をおこなう。
2. 八幡市立松花堂美術館 展覧会：令和4年 初秋の小展示「くらしに寄り添う南山焼 ～煎茶のうつわを中心に～」	2022年9月3日～2022年10月2日	【主担当】八幡のやきもの・南山焼について、館蔵品・寄託品のなかから紹介。展覧会内容の企画立案、
3. 八幡市立松花堂美術館 展覧会：令和4年 初夏展 「こんなんあります、近世絵画」	2022年6月11日～2022年7月18日	広報物準備、作品の調整、キャプションの作成、取材対応をおこなう。 【主担当】個人コレクションのなかから、狩野派や土佐派、世間によく名の通っている人物ではあまりない作品を中心に、幅広いジャンルで紹介する展覧会を開催。内容や展示作品の調整、広報物の作成、取材対応をおこなう。
4. 八幡市立松花堂美術館 展覧会：令和4年 新春展 「いいことありそう、寅の年」	2022年1月8日～2022年2月6日	【主担当】干支にちなんだ作品を中心に、新春らしい展覧会を開催。展覧会内容の企画立案、広報物準備、作品の調整、キャプションの作成、展示解説、取材対応をおこなう。
5. 八幡市立松花堂美術館 展覧会：令和3年 春季企画展「春爛漫！松花堂は花盛り」	2021年3月13日～2021年4月28日	【主担当】館蔵品を中心に、春らしさを感じられる作品を紹介する展覧会。椿や桜が咲く季節に合わせ、併設する松花堂庭園とどちらも楽しんでもらえるような内容。展覧会内容の企画立案、広報物の作成、作品の調整、キャプションの作成、展示解説、取材対応をおこなう（新型コロナウイルス感染拡大にともなう緊急事態宣言発出のため、会期中途中で終了）。
6. 八幡市立松花堂美術館 展覧会：松花堂美術館 令和2年 秋季企画展「近世画楽多」	2020年10月24日～2020年12月6日	【主担当】個人コレクションのなかから、近世絵画に親しみを感じられるような内容の展覧会を開催。内容や展示作品の調整、広報物の作成、取材対応をおこなう。
7. 八幡市立松花堂美術館 展覧会：令和2年 新春展 「梅を愛で、芝居を楽しむ」	2020年1月11日～2020年2月16日	【主担当】新元号「令和」の由来ともなった万葉集所収の梅の歌、そして市川團十郎襲名にあわせた二本立ての内容とした展覧会。展覧会内容の企画立案、広報物準備、作品の調整、キャプションの作成、展示解説、取材対応をおこなう。
8. 八幡市立松花堂美術館 展覧会：令和元年 初秋の小展示「やわた南山焼 ～動植物デザインにみる素朴な魅力～」	2019年9月1日～2019年10月14日	【主担当】八幡のやきもの・南山焼について、館蔵品・寄託品のなかから紹介。展覧会内容の企画立案、
9. 八幡市立松花堂美術館 展覧会：2019年度 初夏展 「ご存知ですか？大阪画壇」	2019年5月25日～2019年7月7日	広報物準備、作品の調整、キャプションの作成、取材対応をおこなう。 【主担当】個人コレクションのなかから、大阪画壇に関する展覧会を開催。内容や展示作品の調整、広報物の作成、取材対応をおこなう。
10. 八幡市立松花堂美術館 展覧会：平成30年 初秋の小展示「くらしの器 やわた南山焼」	2018年9月8日～2018年10月8日	八幡のやきもの・南山焼について、館蔵品・寄託品のなかから紹介。展覧会内容の企画立案、広報物準備、作品の調整、キャプションの作成、取材対応をおこなう。
11. 新潟市歴史博物館 展覧会：第9回むかしのくらし展 「くらしの道具」	2012年9月15日～2012年12月16日	小学校の社会科の単元にあわせて例年開催している「むかしのくらし展」の一環で、主に近代（主に昭和戦前・戦後期）のくらしの道具に着目し、使用用途などについて紹介。企画立案、広報物準備、資料調査、展示資料選定、キャプション作成、展示、取材対応をおこなう。
4 その他		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				



研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>2 学位論文</b>				
1. 修士論文「京都国立博物館所蔵 象のいる洛中洛外図屏風について」	単	2011年3月	同志社大学大学院文化情報学科	「洛中洛外図屏風」は国内外に100点以上存在することが確認されているが、京都国立博物館に所蔵されている作品には京都のまちなかを歩く象の姿が描かれており、現時点においてその描写は唯一のものである。その作品について、文献資料などを用いてその描写が事実であることを確認し、その描写を中心として景観年代の推定や制作意図などを検討した。
<b>3 学術論文</b>				
1. 「絵画表現にみる着物の意匠—現物資料との比較にむけての一試論—」（査読付き）	単	2024年3月	「文化情報学」第19巻	近代の阪神地域で主に普段着として着用されていた着物の柄と、同じ時代・地域で制作された近代日本画に描かれる着物の柄との関係性について着目し、共通点がどの程度みられるかについて検討した。そして、絵画表現にみられる着物の意匠について、現物資料と比較し、具体的な流行やモチーフの傾向などを分析できるかどうかの一試論を提示した。
2. 「着物にみられるアザミ模様の「主題」についての検討」（査読付き）	単	2024年3月	「武庫川女子大学附属総合ミュージアム紀要・年報」第4号	着物の模様を用いられる花は、その多くが吉祥の意味や物語性を有している。そのなかで、ミュージアム所蔵資料の中にアザミ模様があることに着目し、アザミ模様が確認できる江戸時代に発行された雛形資料や他館所蔵の実物資料、さらに近代日本画の作品について調査し、アザミ模様が意味する「主題」について検討した。
3. 「八幡市立松花堂庭園・美術館 向蝶文庫本「養蚕機織図屏風」について」	単	2017年3月	「博物館学年報」第48号	松花堂美術館所蔵の「養蚕機織図屏風」（向蝶文庫）について、その内容の紹介をおこなった。さらに、養蚕図の受容や作品の系譜について取り上げ、養蚕機織を描いた作品群のなかにおける本作品の位置づけについて検討した。
4. 「京都国立博物館所蔵 洛中洛外図屏風に描かれた象の姿について」（査読付き）	単	2015年3月	「文化情報学」第10巻	現存する洛中洛外図屏風のなかで、現時点で唯一象の描写がみられる京博本について、その象が描かれた内容について改めて着目し、南蛮屏風など同時代に描かれた南蛮風俗画に描かれる象の描写と比較検討をおこなった。
5. 「方広寺大仏殿と三十三間堂をつなぐ道—象のいる洛中洛外図屏風の景観分析—」	単	2014年3月	「博物館学年報」第45巻	象が描かれている京博本洛中洛外図屏風の景観について、京都国立博物館の発掘調査報告書に基づいて方広寺大仏殿から三十三間堂にかけての実情を取り上げ、その報告内容と京博本の景観とを比較することによって、京博本の描写が実際の景観をかなり忠実に描いていることを指摘した。その描写の特徴は、京博本洛中洛外図屏風全体にも適用できるものであると考え、京博本の描写内容を検討する上での重要な観点であるとした。
<b>その他</b>				
<b>1. 学会ゲストスピーカー</b>				
<b>2. 学会発表</b>				
1. 「レオナルド絵画の定量的考察」	共	2019年12月	じんもんこん2009 人文科学とコンピュータシンポジウム	レオナルド・ダ・ヴィンチが描いた作品は、現代においても真贋判定が定かでないのがみられる。その判定に関する分析について、同一の図録から全作品を同じ条件でデータ化し、画像データを二値化してグラフにすることによって、そのグラフデータの形状をグルーピングした結果が現状における分析結果に適合することを示し、絵画を分析するひとつの手法として用いることができることを示した。
2. 「京博C本の制作意図についての検討」	単	2014年10月	文化情報学研究科シンポジウム	これまでにおこなってきた京博本洛中洛外図屏風の景観年代についての分析をベースにしながら、象が描かれていることに改めて着目し、ほかに類似する景観を有する作品が現時点で確認できないことから、京博本が制作された意図について検討した。
3. 「二条城以北に描かれた寺院群の検討—京博C本洛中洛外図の景観分析 その2—」	単	2014年5月	文化情報学研究科シンポジウム	洛中洛外図は、その景観年代の違いによって描かれる場所に変化が見られる。現存する洛中洛外図屏風と京博本の景観とを比較検討し、二条城以北が比較的広く描かれていることを着目し、その描かれている寺院の検討やそこから考えられる景観年代について分析をおこなった。
4. 「京博本研究の現状と人物描写からみる一考察」	単	2013年11月	文化情報学研究科シンポジウム	象が描かれた京博本洛中洛外図屏風の詳細を研究する一環とし、研究の現状と描かれている人物の特徴について分析をおこなった。
5. 「京博本洛中洛外図屏風の詳細研究 —」	単	2013年5月	文化情報学研究科シンポジウム	象が描かれた京博本洛中洛外図屏風の詳細を研究する一環として、その景観年代を具体的に絞り込むことを目的とし、描かれている建

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>2. 学会発表</b>				
建築物を中心として一				築物について分析をおこなった。景観年代によって区分されている洛中洛外図屏風の各作品と比較をして、京博本洛中洛外図屏風の景観年代が比較的早い時期のものであることを指摘した。
<b>3. 総説</b>				
1. 企画展示紹介 第9回 むかしのくらし展 「くらしの道具」	単	2013年3月	「新潟市歴史博物館研究紀要」第9号	新潟市歴史博物館において2012年に開催した第9回むかしのくらし展「くらしの道具」の企画意図・展示内容などについて紹介をおこなった。
2. 学芸員談話室(8) 教育の現場としての博物館	単	2012年3月	「博物館学年報」第45巻	新潟市歴史博物館で教育普及担当の学芸員として仕事をすすめていくなかで、小学生をはじめとする学校教育の場として、さらには学生や来館者へ展示内容の解説をおこなうボランティアスタッフの生涯学習の場としての博物館の役割や課題などについて言及をおこなった。
<b>4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績</b>				
<b>5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等</b>				
1. 「八幡市文化センター開館40周年記念 歴史小説の魅力とは～想いと景色と表現と～」		2023年10月	主催：公益財団法人やわた市民文化事業団 会場：八幡市文化センター	八幡市文化センター開館40周年記念イベントとして、関西出身の直木賞作家である朝井まかて氏・澤田瞳子氏をゲストに迎え、歴史小説を紡ぐことへの想いや取材・執筆のエピソード、親交の深い2人の関係性などについて、トークイベントを開催した。企画立案・調整・広報物作成をおこなうとともに、ナビゲーター役として登壇した。
2. 「第165回直木賞作家 澤田瞳子氏トークイベント 松花堂文化サロン 京都やわたで紡ぐ創作の糸」 登壇		2022年3月	主催：公益財団法人やわた市民文化事業団 会場：八幡市立松花堂庭園・美術館	寛永期に様々な人と交流し文化サロンを形成した松花堂昭乗にちなみ、現代の文化サロンを松花堂から発信することを目的としたイベントを企画・開催。「星落ちて、なお」で直木賞を受賞された澤田瞳子氏をゲストに招き、当館館長とともに歴史を紡ぐということを切り口に現地・オンラインのハイブリッド形式で開催。司会進行を兼ねて登壇。
3. 文化庁「令和2年度博物館・文化財等におけるナイトタイム充実支援事業」 「梅の香かおる 松花堂庭園ライトアップ」		2020年3月	主催：公益財団法人やわた市民文化事業団 会場：八幡市立松花堂庭園・美術館	文化庁の補助金事業として、施設の夜間活用の実証実験となるイベントを開催。申請時から関わり、SNSでの情報発信に関して中心となってコーチングを受け、実際に業務を遂行。ゲストを招いた夜茶会（3月3日・4日）のアテンド、一般募集をおこなった夜茶会（3月5日・6日）や一般向けのライトアップ（3月7日）のスタッフとして活動。
4. 「絵画研究と鑑賞における「情報」の意味の違い — 『洛中洛外図』と『一笑図』を例として—」		2019年6月	2019年度文化情報学研究科共通シンポジウム（文化資源学コース） 会場：同志社大学 京田辺キャンパス 夢告館	美術館で勤務する学芸員の立場から、絵画研究をおこなうときと、展示公開をおこなうときとの自身の視点の違いや、その作品の分析結果を享受する人の違いについて述べ、そこで重要となる「情報」の意味合いが異なることに言及した。
<b>6. 研究費の取得状況</b>				
学会及び社会における活動等				
年月日	事項			